

特集 |

看護業務拡大による可能性を探る 現場のニーズと教育システムの構築



いま医師の偏在と看護師不足によって、十分な医療の提供ができない状況が生まれている。米国などの例にならい、周手術期における PA (Physician Assistant) の養成などが医師側から要望されるなか、看護側においても、過疎地域で医師不在を補ったり、病院で救急患者のトリアージや専門外来を行なう NP (Nurse Practitioner) の教育を始める大学院も出てきている。

ただ、専門看護師や認定看護師などの看護のエキスパートと、医学モデルによる新たな役割をいかに整理していくか、経済的な根拠をどうするかなど、問題は山積している。それぞれの思惑が交錯するなか共通のゴールが見出せるのかどうかを議論したい。